

外為ウィークリービューⅡ 欧州編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/05/30

米国景気減速懸念が焦点

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	➡	ドルが主役の展開では方向感に欠ける 予想レンジ: 113.00 ~ 118.00 円	2-3
ユーロ/ドル	➡	雇用統計までの一連の米経済指標がカギ 予想レンジ: 1.3950 ~ 1.4450 ドル	4-5
ポンド/円	➡	ポンド/ドルとドル/円の動きを両睨み 予想レンジ: 131.00 ~ 135.20 円	6-7
ポンド/ドル	➡	米雇用環境の強弱をはかる 予想レンジ: 1.6200 ~ 1.6700 ドル	8-9
経済指標 カレンダー		一週間の予定を一覧で表示	10-11

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 5/23~27までの主な推移



5/23 Monday	前週末に格付け会社S&Pがイタリアの格付け見通しを引き下げた事、22日に行われたスペインの地方選挙でサパテロ首相率いる政権与党が大敗を喫した事などを背景にユーロ売りが進んだ。さらに、中国の景気減速懸念から上海総合株価指数や原油先物価格が大幅に下落した事もある、ユーロ/円は113.87円の安値を付けた。(①)
5/24 Tuesday	独5月IFO景況指数が114.2と予想の113.7を上回った事を好感して、ユーロが上昇した。その後も欧州株が上昇した流れを引き継いで、NYダウ平均株価が堅調に寄り付き、原油先物価格も2ドル超上昇するとユーロ/円は116.18円まで上昇した。(②)
5/25 Wednesday	本邦4月通関ベース貿易収支は4637億円の赤字となったが、事前予想(7037億円の赤字)ほどには赤字額が拡大しなかった事を受けて円が買われると、ユーロ/円は下落した。その後、時間外のNYダウ平均先物が100ドル超下落し、原油先物価格も1ドル超の下落となると、ユーロ/円は114.70円まで下げ幅を広げた。(③)
5/26 Thursday	英FT紙が欧州金融安定ファシリティ(EFSF)首脳の話として「EFSFが6月にポルトガル救済目的の債券を発行する際には中国政府などアジアの投資家がかなりの部分を購入する可能性がある」と伝えたとユーロ/円は116.38円の高値を付けた。しかし、その後ユンケル・ユーログループ議長が「国際通貨基金(IMF)は来月、ギリシャに救済融資を拠出しない可能性がある」と述べた事が伝わるとユーロ/円は114.47円まで下落した。(④)

上昇要因(ユーロ高・円安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題の緩和
- ・日銀による追加緩和への期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ユーロ安・円高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測後退
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題
- 欧州金融機関に対する懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/JPY

今週の見通し

先週のユーロ/円相場は113.87円～116.38円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、ほぼ寄り引け同値となった。この間、ユーロ/ドルは上昇した一方で、ドル/円が下落するなど、ドルが中心の相場展開であったため、結果的にユーロ/円は方向感なく推移した。今週は、3日の雇用統計を始め、米国の景気動向を見極めるための重要な経済指標の発表が多く予定されている。したがって、引き続きドル中心の相場展開が予想され、米国の経済指標に悪化が目立つようならドル売り・ユーロ買いとドル売り・円買いが優勢となり、反対の結果ならユーロ売り・ドル買いとドル買い・円売りが強まると見られる。結果的に、今週もユーロ/円相場には方向感が出にくいだろう。ただ、ギリシャでは国際通貨基金(IMF)と欧州連合(EU)による支援融資第5弾の実行に向けた交渉が続けられており、数日中にまとまる見通し(パパコンスタンティヌス・ギリシャ財務相)とされている。ギリシャの新たな財政削減案と引き換えに交渉がまとまれば、ユーロ買いが優勢となる可能性もある。(神田)

(予想レンジ: 113.00～118.00円)

テクニカル分析

【移動平均線】
 20日線 60日線 200日線
 【ボリンジャーバンド】
 +2シグマ -2シグマ



●ユーロ/円 5/27週足引値: 115.59円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)ユーロ/円は、88.93円(2000/10安値)から169.95円(2008/07高値)へと81.02円上昇したあと、大きく下落した。それから、105.42円(8/24)を安値、115.97円(3/04)を高値にもみ合ったあと、4/11に123.33円まで上昇して以降は揉み合いながら下落中である。先週のユーロ/円は113.87円の安値から116.38円へと上昇したが引値は115.59円となり、方向感のない狭い取引レンジの1週間となった。取引値は200日線(113.17円、5/27)よりも上値にあるものの、20日線(116.18円、5/27)、60日線(117.08円、5/27)を下回っている。ボリンジャーバンドは5/27現在、上限: 119.74円～下限: 112.62円で、バンド上限が大きく下落する中、下限は緩やかに上昇しており、もみ合い相場であることを意味している。もう暫く揉み合うか、上昇の方向に向かうと考える(ストキャスの力が買いになってきている)。上値ポイントは、①116.38円(5/26高値)、②117.08円(60日線)、③117.23円(5/19高値)、④117.59円(5/6高値)、⑤118.49円(4/29安値)、下値ポイントは①113.87円(5/23安値)、②113.39円(5/16安値)、③113.17円(200日線、5/27段階)、④112.62円(ボリンジャーバンド下限、5/27段階)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロ/ドル 5/23~27までの主な推移



<p>5/23 Monday</p>	<p>前週末に格付け会社S&Pがイタリアの格付け見通しを引き下げた事、22日に行われたスペインの地方選挙でサパテロ首相率いる政権与党が大敗を喫した事などを背景にユーロ売りが進んだ。さらに、中国の景気減速懸念から上海総合株価指数や原油先物価格が大幅に下落した事もある、ユーロ/ドルは1.3968ドルの安値を付けた。(①)</p>
<p>5/24 Tuesday</p>	<p>独5月IFO景況指数が114.2と予想の113.7を上回った事を好感して、ユーロが上昇した。その後も欧州株が上昇した流れを引き継いで、NYダウ平均株価が堅調に寄り付き、原油先物価格も2ドル超上昇するとユーロ/ドルは1.4132ドルまで上昇した(②)。</p>
<p>5/26 Thursday</p>	<p>英FT紙が欧州金融安定ファシリティ(EFSF)首脳の話として「EFSFが6月にポルトガル救済目的の債券を発行する際には中国政府などアジアの投資家がかなりの部分を購入する可能性がある」と伝えたとユーロ/ドルは上昇した。さらに、米新規失業保険申請件数が42.4万件と予想(40.4万件)以上に増加、米第1四半期国内総生産(GDP)・改定値も予想(前期比年率+2.2%)を下回る+1.8%となった事を受けてドル売りが強まるとユーロ/ドルは1.4205ドルまで上昇した。しかし、その後ユンケル・ユーログループ議長が「国際通貨基金(IMF)は来月、ギリシャに救済融資を拠出しない可能性がある」と述べた事が伝わるとユーロ/ドルは1.4067ドルまで急落した。(③)</p>
<p>5/27 Friday</p>	<p>ギリシャ中銀のプロボポラス総裁が「緊縮財政を順守すればギリシャは債務再編をせずに全ての国債を償還できる」などと発言した事を受けてユーロが上昇。その後、米4月中古住宅販売成約が前月比-11.6%と予想(-1.0%)以上に悪化した事を受けて、米国景気の減速懸念からドル売りが強まると、ユーロ/ドルは上値を伸ばし、1.43ドル台まで上昇した。(④)</p>

上昇要因(ユーロ高・ドル安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題の緩和
- ・米国の超低金利長期化観測

下落要因(ユーロ安・ドル高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測の後退
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題
→欧州金融機関に対する懸念
- ・ドル金利の先高観

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

今週の見通し

先週のユーロ/ドル相場は1.3968~1.4308ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約1.2%の上昇(ユーロ高・ドル安)となった。しかし、この間、ユーロは対スイスフランではユーロ導入後の最高値を記録しており、ユーロが上昇したというよりもドルが下落した1週間であったと言える。今週は、3日の雇用統計を始め、米国で重要指標の発表が数多く予定されており、米国経済の減速懸念を背景に引き続きドル売り優勢となるのか、反対に、強い経済指標が発表され、ドルが買い戻されるのかが焦点となる。ただ、ギリシャでは国際通貨基金(IMF)と欧州連合(EU)による支援融資第5弾の実行に向けた交渉が続けられており、数日中にまとまる見通し(パパコンスタンティヌス・ギリシャ財務相)とされている。今週中に、ギリシャの新たな財政削減案と引き換えにこの交渉がまとまれば、目先的にはギリシャの債務再編に対する不安が後退する事になり、ユーロ買いが優勢となる可能性もある。(神田)

(予想レンジ:1.3950~1.4450ドル)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ユーロ/ドル 5/27週足引値:1.4302(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)
 ユーロ/ドルは超長期で見ると、0.8234(2000/10安値)と1.6037(2008/07高値)の幅の中、半値である1.2136を割り込んで2010/6/07に1.1874の安値を見た。その後は11/04高値1.4283⇒1/10安値1.2873⇒5/04高値1.4940⇒5/23安値1.3968となっている。現状の取引値は、200日線(1.3698、5/27)、60日線(1.4285、5/27)よりも上値に位置し、20日線(1.4321、5/27)に近接してきている。ボリンジャーバンドは5/27現在、上限:1.4814~下限:1.3829であり、ボリンジャーバンドの上限は大きく下落、下限はやや上昇となっている。ユーロ/ドルは週初5/23の安値1.3968からリバウンドの上昇で1.4308まで340pips上昇した。やや上昇の方に分があるようにも見えるが、とは言え一挙に上昇するとも思えない。よって、今は「この1.40-1.44でもみ合いを経ながら、次の大きな上昇を窺いつつ、その方向に向けた準備を着々と整えていく」というところか。上値ポイントは①1.4321(20日線、5/27段階)、②1.4344(5/20高値)、③1.4347(5/27高値)、④1.4440(5/09高値)。下値ポイントは①1.4135(5日線、5/27段階)、②1.4088(90日線、5/27段階)、③1.3907(1.2873-1.4940、今年の安値-高値の50%)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 5/23~27の主な推移



5/23 Monday	上海総合株価指数が大幅に下落し、NY原油先物が下げ幅を拡大したことや、スペインの地方選挙で与党が敗北したことを背景にユーロ/円が下落すると、ポンド/円は連れ安となり、131.27円の安値をつけた(①)。
5/24 Tuesday	朝に一部報道が「格付け会社ムーディーズが英国の14の金融機関を格下げする」と報じ、ポンドは下落。その後、欧州市場序盤にムーディーズが「英国の14の金融機関を格下げ方向で見直す」と発表すると、131.42円まで値を下げた。しかし、その後はユーロ/円の上昇に連れる形で133.12円まで反発した(②)。
5/25 Wednesday	アジア市場中はNYダウ平均先物の下落などを受けてポンド/円は軟調に推移。しかし、17時発表の独5月IFO景況指数が予想を上回りユーロ/円が上昇すると、ポンド/円も連れて上昇。17時30分に発表された英第1四半期個人消費・改定値が-0.6%と予想(+0.1%)に反して前回(-0.3%)より悪化していたことを受けてポンドの頭は一時押さえられたが、NYダウ平均先物が下げ幅を縮小する中でポンド/円は値を伸ばし、NY市場では133.67円まで上昇した(③)。
5/26 Thursday	ポンド/円は午前中にポンド/ドルの上昇に連れて133.77円の高値まで上昇したが、その後は上値が重く、欧州市場に入ってNYダウ平均先物が上げ幅を縮小する展開になると、ポンド/円はジリ安となった。さらに、21時30分に発表された米新規失業保険申請件数や米第1四半期国内総生産(GDP)・改定値が予想よりも弱い結果になったことを受けてドル/円が急落すると、ポンド/円は連れ安となり、132.64円まで下落(④)。しかし、NYダウ平均が安寄り後に下げ幅を縮小し、プラスサイドに切り返す中で133円台に値を戻した。

上昇要因(ポンド高・円安)

- ・英国経済の景気回復期待
- ・日銀の追加緩和観測
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ポンド安・円高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

今週の見通し

今週の英国では、6月1日から3日にかけて5月PMI(1日:製造業、2日:建設業、3日:サービス業)が発表される。これらの経済指標はポンド/円の手掛かり材料となつてこよう。しかし、今週は米雇用統計を始めとする重要雇用関連指標が発表されるため、ドルを主体とする相場展開が予想される。従って、ポンド/円は週を通してドル/円とポンド/ドルの動きに連れる、主体性の乏しい値動きになりそうだ。

また、引き続きギリシャの債務再編に関する報道には注目したい。これをきっかけにユーロ/円が大きく動けば、ポンド/円も連れた動きになる可能性がある。(ジェルベズ)

(予想レンジ:131.00~135.20円)

テクニカル分析



●ポンド/円 5/27週足引値:133.42円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)
 ポンド/円は、118.76円(2009/01/19安値)から163.04円(2009/08/07高値)まで44.28円上昇した。上記上昇幅のどこまでを下落によって戻すかが焦点だが、すでに安値122.98円(3/17)をつけており、長期的には依然として下落の流れのように見える。

ポンド/円は4/08に高値140.00円をつけてからもみ合いながら下落推移している。現状では、200日線(131.79円、5/27)、20日線(132.43円、5/27)を上回り、60日線(133.46円、5/27)と交錯する推移となっている。ボリンジャーバンドは5/27現在、上限:134.48円~下限:130.38円であり、バンド上限は下落、下限は上昇でバンド幅は縮小している。緩やかに上昇するも、134円手前で上値が重い推移が続いている。しかし、あまり下落しない動きを見ると、1回は上値(134~135円)に持ち上げられる可能性を感じるころだ。上値ポイントは①134.01円(5/11高値)、②134.48円(ボリンジャーバンド上限、5/27段階)であり、下値ポイントは①132.43円(20日線、5/27段階)、②131.78円(200日線、5/27段階)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 5/23~27の主な推移



5/23 Monday	上海総合株価指数が下落し、原油先物が下げ幅を拡大したことや、スペイン地方選挙での与党敗北を背景にユーロ/ドルが下落すると、ポンド/ドルは連れて終日下落した(①)。
5/24 Tuesday	朝方、一部報道が「格付け会社ムーディーズが英国の14の金融機関を格下げする」と伝えたことなどを受け、ポンド/ドルは1.6056ドルまで下落した(②)が、その後は反発。欧州市場序盤にムーディーズが「英国の14の金融機関を格下げ方向で見直す」と発表すると、再び反落する場面もみられたものの、その後はユーロ/ドルの上昇に連れる形で1.6207ドルまで上昇した。
5/25 Wednesday	東京市場中はNYダウ平均先物の下落などを受けてポンド/ドルは下落。下げ一服後も戻りは弱く、17時30分に発表された英第1四半期個人消費・改定値が-0.6%と予想(+0.1%)に反して前回(-0.3%)よりも悪化していたことでポンドが売られる場面もみられた。ただ、NYダウ平均先物が下げ幅を縮小するとポンド/ドルは値を伸ばし、NY市場では1.63ドル目前まで上昇した(③)。
5/26 Thursday	英紙フィナンシャル・タイムズが欧州金融安定ファシリティ(EFSF)のレグリング最高経営責任者の話として「EFSFが6月にポルトガル救済目的の債券を発行した場合、中国政府等アジアの投資家がかなりの部分を購入する可能性」と伝え、ユーロ/ドルが上昇し、ポンド/ドルはそれに連れて上昇。さらに、米国の経済指標で予想よりも弱い内容のものが複数出た上、26時に行われた米7年債入札が好調で、米国債利回りが大幅に低下したことからドル売りが強まった(④)。
5/27 Friday	前日からの米国債利回り低下を受けて全般的にドル売りが進む中、ポンド/ドルは上昇。23時発表の米4月中古住宅販売成約が前月比-11.6%と予想(-1.0%)以上に減少していたことを背景にドル売りがさらに進むと、ポンド/ドルは1.6507ドルの高値をつけた(⑤)。

上昇要因(ポンド高・ドル安)

- ・米経済先行き懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・中東情勢の悪化懸念

下落要因(ポンド安・ドル高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・BOEの新たな金融緩和策への期待
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

今週の見通し

週初30日は英米共に祝日のため方向感はないと考えられる。だが、31日以降の米国では連日主要経済指標が発表される他、英国でも6月1日以降は5月PMIが連日発表される。週半ば以降は、欧州市場中は英国の経済指標、NY市場に入ると米国の経済指標を手掛かりに動く、という値動きになるだろう。英経済指標が良好、あるいは好悪入り混じる状態で、米経済指標に弱めの内容のものが目立つようなら、ポンド/ドルは先週に引き続き上値を追う展開になりそうだ。なお、米国では3日に1カ月の中で最も注目される米雇用統計が発表される予定で、その前に発表される雇用関連指標(6月1日:5月ADP全国雇用者数、5月ISM製造業景況指数の雇用指数、2日:新規失業保険申請件数)にも大いに注目が集まる見通しだ。従って、米国市場ではより大きく値が動く可能性が高い。この他、ギリシャの債務再編に絡む思惑でユーロ/ドルが大きく動けば、ポンド/ドルも連れて上下動することも考えられる。関連報道には要注意だ。(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.6200~1.6700ドル)

テクニカル分析



●ポンド/ドル 5/27週足引値:1.6505(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見た相場展開)
 ポンド/ドルは、1.3501(2009/01/23安値)から1.7043(2009/08/05高値)まで3542ポイント上昇した。大きなところでは依然としてその安値-高値の中で大きなもみ合いを形成中である。

4/28に直近高値1.6744を見て後、5/24には1.6056まで下落し、5/27には1.6507まで上昇した。

取引値は、200日線1.5931(5/27)、60日線1.6281(5/27)や20日線1.6398(5/27)を上回って来ている。また、ボリンジャーバンドは5/27現在、上限:1.6731~下限:1.6095であり、バンド幅の上限は下落、下限は上向きになってきている。ボリンジャーバンド上限に向けた上昇がまずは考えられる。勢いづいた後の落ち着きどころがどこになるかが焦点だ。目先の上値ポイントは①1.6515(5/11高値)、②1.6731(ボリンジャーバンド上限、5/27段階)、③1.6744(4/28高値)、であり、下値ポイントは、①1.6398(20日線、5/27段階)、②1.6281(60日線、5/27段階)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (5/30~6/1)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/30	—		ロンドン休場(スプリング・バンクホリデー)、米国休場(メモリアルデー)		
(月)	07:45	○	(NZ) 4月貿易収支	+4.64億NZD	—
	21:30	○	(加) 3月GDP [前月比]	-0.2%	+0.2%
	21:30	◎	(加) 第1四半期GDP [前期比年率]	+3.3%	+4.0%
	21:30		(加) 第1四半期経常収支	-110億CAD	-30億CAD
5/31	08:30		(日) 4月失業率	4.6%	4.7%
(火)	08:30		(日) 4月有効求人倍率	0.63	0.62
	08:50		(日) 4月鉱工業生産・速報・確報 [前月比]	-15.5%	+1.9%
	08:50		(日) 4月鉱工業生産・速報・確報 [前年比]	-13.1%	-12.8%
	10:30		(豪) 4月住宅建設許可件数[前月比]	+9.1%	—
	10:30		(豪) 第1四半期経常収支	-72.99億AUD	—
	16:55	○	(独) 5月失業者数	-3.7万人	-3.0万人
	16:55	○	(独) 5月失業率	7.1%	7.0%
	18:00	◎	(ユーロ圏) 5月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.8%	+2.8%
	18:00	○	(ユーロ圏) 4月失業率	9.9%	9.9%
	18:30		(南ア) 第1四半期GDP [前期比年率]	+4.4%	+4.2%
	19:00		(日) 外国為替平衡操作の実施状況 (4月27日~)[月ベース]	0円	—
	21:00		(南ア) 4月貿易収支	+10億ZAR	-13億ZAR
	22:00	◎	(加) 加中銀政策金利発表	1.00%	—
	22:00	○	(米) 3月S&P/ケース・シラー住宅価格指数 [前年比]	-3.33%	-3.50%
	22:45	◎	(米) 5月シカゴ購買部協会景気指数	67.6	63.0
	23:00	○	(米) 5月消費者信頼感指数	65.4	66.4
6/1	10:30	◎	(豪) 第1四半期GDP [前期比]	+0.7%	—
(水)	10:30	◎	(豪) 第1四半期GDP [前年比]	+2.7%	—
	17:30	◎	(英) 5月PMI製造業	54.6	54.3
	17:30		(英) 4月消費者信用残高	+1億GBP	+3億GBP
	17:30		(英) 4月マネーサプライM4・速報 [前年比]	-1.1%	—
	21:15	◎	(米) 5月ADP全国雇用者数	17.9万人	17.8万人
	23:00	◎	(米) 5月ISM製造業景況指数	60.4	58.0

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (6/2～3)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/2	—		チューリップ休場(キリスト昇天祭)		
(木)	10:30	○	(豪) 4月貿易収支	17.40億AUD	—
	10:30	○	(豪) 4月小売売上高 [前月比]	-0.5%	—
	17:30	◎	(英) 5月PMI建設業	53.3	54
	21:30	◎	(米) 5/28までの週の新規失業保険申請件数	42.4万件	—
	21:30		(米) 第1四半期単位労働費用・確報値 [前期比]	+1.0%	+0.8%
	21:30		(米) 第1四半期非農業部門労働生産性	+1.6%	+1.8%
	23:00		(米) 4月製造業受注指数 [前月比]	+3.4%	-0.8%
6/3	07:45		(NZ) 4月住宅建設許可 [前月比]	+2.2%	—
(金)	17:30	◎	(英) 5月PMIサービス業	54.3	—
	21:30	◎	(米) 5月非農業部門雇用者数	+24.4万人	+19.5万人
	21:30	◎	(米) 5月失業率	9.0%	8.9%
	23:00	◎	(米) 5月ISM非製造業景況指数	52.8	54.3

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com